

今年はコロナ終息。地球復活元年にしましょう！
岩手県北上でのカシミア作りは今年で100年。

底冷えのコロナ禍、ツワブキの艶やかな深緑と黄色い花に元気をもらいます。

昨年は12月に入って、3日にQVCのTV通販、6日朝TBSのがつちりマンデーで紹介されて大きな反響を頂きました。以後ネット販売やふるさと納税のオーダーが増え、例年になく忙しい年で暮れました。

2011年、山梨から岩手に工場を移転して今年で10年になります。

まだ東日本大震災が落ち着かない2011年秋、3人で始まった岩手工場ですが、今では10人態勢でかなり手狭になってきました。



【小学生からの寄附】

香川県坂出市立坂出小学校の生徒さんたちが学校行事の販売会で、カシミア天使の葉50枚を販売し5千円の寄附を送ってくれました。

「多くの皆さんが喜んで買ってくださいって、すぐに完売しました」と気遣いを頂く丁寧な生徒さんからの礼の手紙にこちらが恐縮しました。

この坂出小学校のキャリア教育の取り組みは、文部科学大臣表彰を受けているそうです。

【QVCとがつちりマンデー】

12月に入って、3日深夜にテレビ通販のQVCで販売させて頂きました。弊社の今瀬が生出演で一時間出演し、お客様で予算はほぼ達成し完売の商品続出、上々の結果でした。

6日朝はTBSのがつちりマンデーでは、宇土が「畑違い社長」で旅行屋からきたニット屋として、カシミア専門店、オンラインワンのニットのオーダー、ネット販売でガッチリと紹介され、2つのメディア露出のお陰でウェブサイトの本店、楽天とも桁違いのオーダー。年明けの今でも対応に大わらわ状態です。

【ニットは、いい加減が良い加減】

セーターをはじめニットの良さの最たるものは着心地の良さですね。それはニットの特徴であるループによる編地の伸び縮みにあります。

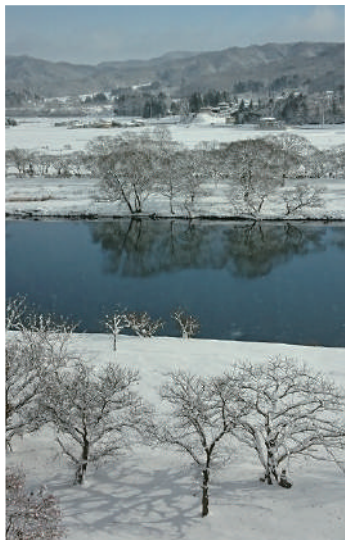
織物は縦糸に横糸を織り込んでいくので横にも縦にも伸びません。この織地の組織によって服は安定して形が崩れません。一方、ニットは編地がループ状なので体の動きに合わせて伸びたり縮んだりします。

すから着心地が良いのですが、この着心地が良い利点が悪化問題も持っているんです。それは寸法が定まりにくいことです。

UTOでは、「お客様の希望の寸法で作ります」というカスタムメイドが大きな特徴の一つですが、これは大変なリスクでもあります。

セーターを編む時には、何センチの中にとだけ針本数(目立て)と言います。で、何センチの丈に對して何回編むというのを設計図回数書の通りに編んでいきます。基本的にはデジタルな方法なんです。UTOの場合、お客様お一人お一人の型ごとに指示書を作りますので大変な作業なのですが、その指示書に従って、例えば巾をニセンチ出すときにはその分の針立てを増やし、五センチ短くする時にはその分の編み回数を減らして編むことになります。

皆さんのセーターを横に引っ張ったら何センチになりますか？多分30%ぐらいは簡単に伸びるでしょうしその反動で丈が10%ぐらい短くなってしまう。このぐらいニットはいい加減なんです。『ニットとはいい加減なもので、だからこそ良い加減』の着心地になることをどうぞご理解ください。なにせ、ニットは『莫大小』って言うんですから。



【青山・表参道界限】

青山の古地図散歩(2)

毎日、高木さん宅でお仕事

江戸の昔が垣間見える江戸切絵図・東都青山で、今回は表参道入口の善光寺から原宿にかけてでしたが、今回は骨董通り辺りの様子です。

現在の銀座線外苑前辺りから表参道、骨董通り一帯は百人町とあります。青山は青山忠成という人が徳川家康から拝領したことで青山の名前の基になったことは、以前この通信で書いたように、これは青山家の敷地(下屋敷)で、彼の配下の鉄砲隊甲賀衆の組屋敷が大山道(青山通り)の両側に、十数坪から三十坪以内ぐらいの屋敷が並んでいました。ここから江戸城の守りに通っていたんですね。

南青山5丁目辺りが百人町の一部になると思いますが、甲賀と聞くと私はすぐに甲賀忍者が頭に浮かぶのですが、甲賀ゆかりの人達が住んでいたと思うと、「ここら辺の人達は関西弁で生活してたのか？」と、楽しくなります。

この辺りに大きな敷地で山井璞輔というのがありますが、この人のことはよくわかりません。

現在の骨董通りに当たる通りが切絵図には、「主水丁(もんどちよう)」と云う」とあります。ここら辺は高木主水正(たかぎもんどのしょう)という人の屋敷のようです。当社はこの辺りで、私たちは毎日高木さん宅の下屋敷の中で仕事させてもらっているんです。

弊社の隣のビルに角に標識がありますが、「高樹町通り」と書いてあります。高木が高樹に変わったそう、骨董通りの突き当りの六本木通りに首都高

速の高樹町の出入り口があり、高木の名前が残っていますが、今ではここは一般に骨董通りと呼ばれているので、高樹町通りは消えていくかも知れませんね。



高木主水正次は初代河内(大阪)丹南藩主。小牧長久手の戦いや小田原遠征で活躍し、後に1万石を拝領し大名になります。正次の父親の清秀は徳川16将の一人なので大名になったのも頷けますね。以後、高木家は明治維新まで続いて子孫は子爵で、秩父宮様の御妃が次女の百合子様だそうです。

骨董通りと六本木通りの角に富士フィルムの高層ビルがありますが、その袂に長谷寺(ちようこくじ)があります。大安寺と隣合わせでかなりの敷地で、当時は現在の外苑西通り辺りまであったようです。絵地図にはおおきな伽藍ある屋根と階段のある築山が描いてあります。

長谷寺は曹洞宗の寺で福井永平寺の別院です。入ってすぐに右に観音堂があり想像以上の巨大な観音様を見上げると、外の喧騒の東京を忘れて時間を超越した不思議な感覚になります。お勧めです。

絵地図の表記で気になるのは長谷寺の周りにある「小役人」の表示です。役人は一応武士だと思ってしまうが、小役人とは蔑んだ言い方と思うのですがお咎めはなかったのでしょうか？

カシミア100%

リブクルーネックセーター

1112-1368 ￥48,000(税込)



ボディラインに心地よくフィットするワイドリブのクルーネックセーター。コーディネートに取り入れやすいミニマルなデザイン。すっきりとした細身のフィットで冬のインナーとして洗練されたレイヤードスタイルに欠かせないアイテムです。

カシミア100%

ケーブル編み ショールカラーカーディガン

MUAC-5138 ￥130,000(税込)

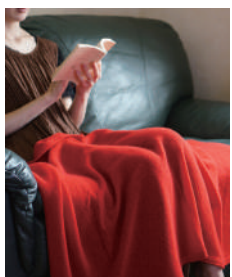


カシミアを贅沢に使用した立体感のあるケーブル編みカーディガン。上質な素材ならではの暖かさはもちろん、ふっくらとしたボリュームのある質感です。

カシミア100%

天使のかこの編みブランケット

1317-3023 ￥38,000(税抜)



カシミア糸をあえて甘めにふんわり編み、軽く、柔らかくボリュームのあるニットブランケットに仕立てました。ひざ掛けだけでなく肩掛けとしても身体をふんわり暖かく包み込んでくれます。

カシミヤとニットの話 ＊（六十八）

TBS・がっちりマンデー

日曜朝の人気番組への出演顛末

TBS日曜日の朝の人気番組「がっちりマンデー」は、加藤浩次、進藤元アウンサーがやっている情報バラエティ番組。大好きで、番組開始当初から毎週欠かさず観ています。

14年も前、2006年のこの通信に、「がっちりマンデーはおもしろいよー」ということを書いたことがあるぐらい番組のファンでした。

11月初め頃、そのがっちりマンデーから電話が来てビックリー騒動が始まりました。

異業種から来た人を探しているということで、旅行屋からニット屋になった私に行き当たったようです。何度か電話取材を受けて、とうとう出るのになりました。

収録は、東京青山の事務所と岩手県北上にある自社工場とTBSのスタジオ。以前出たフジTVのノンストップは簡単なシナリオを渡されたのですが今回は全くのぶっつけ本番なんです。

青山の会社の収録開始時間は決まっていたんですがピンポン！と来客のチャイムが鳴った時には撮影が始まっていてビックリでした。狭い事務所でもみともなく出てくる時からバッチリ撮影されていました。それから約2時間の撮影。

岩手での収録の要点は、いつも通りに仕事をしてください！その間に社長にインタビューの画。皆さんでがっちりポーズをお願いします！

工場のみんなは緊張して撮影されている社長を見ながらニヤニヤと結構楽しんでる様子です。最後のがっちりポーズも何回かの撮り直しでも楽しんでやってくれました。結局岩手工場でも2時間。そして旅行屋時代の古い写真を引っ張り出すのがまた一仕事。

その後、TBS本社のスタジオで収録。いつも見慣れたセットで加藤さん、進藤さん、森永さんとゲストの「大島さんじゃない！」の児嶋さんの収録を他人事のように見学。最後に加藤さんからの質問。それまでは楽しい質問だったのに、私へはかなりシビアな質問でたじろ。結局本放送からは残念ながらカットされていました。

東京青山で2時間、岩手の北上工場で2時間、TBSのスタジオで1時間が、最終の放映は6分になるので、収録って本当に大変な仕事だと思います。短い中で当社の特徴の、カシミヤ専門と、ニットでオーダーが出来るオンラインワンと、ネット販

売はしっかり入れて頂きました。

放送の1週間前、「番組予告終了後は大いに知らせてください」と云うことでしたので、それから皆さんにフェイスブックとメールで報告。

さすが人気番組でかなりの人がご存知で、とても喜んで観ていただき嬉しい限りでした。中には私みたいに見逃さないように毎週録画している方も結構いらっしゃいました。

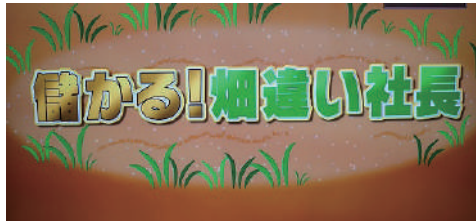
多くの方から「観たよー」との連絡を貰い、中には本当に久しぶりに連絡を頂いた方も。恥を忍んで出た甲斐があったと胸をなでおろしましたが、50年も昔の方で記憶が薄く、どうしても思い出せない方もいらっしゃって申し訳ないの極みでした。全国放送のTVって凄いですね。

後日、がっちりマンデーでのフェイスブックのサイトでカットされていた部分がアップされ、加藤さんとのやり取りで、また嬉しい反響を頂きました。もちろん一番嬉しかったのが、秘かな実は真の目的・笑ネット販売の反響です。放送が終わる前の時刻からネットのオーダーが入り、結局普段の桁違いオーダーを頂き、今度は工場を含め嬉しい悲鳴を上げました。

がっちりマンデーで知ってもらったお陰で北上市のふるさと納税も良い方に影響したことは確かです。新規の寄附者もご来店のお客様もかなり増えました。会社にとって大吉のがっちりマンデーでした！感謝感謝です！



12/6(日) TBS 7:30~



ホテルの便箋と封筒



ホテルに備え付けの便箋と封筒がありますね。レターセットというカッコいいですが。

1枚の便箋と封筒に、ホテルならではの雰囲気を出して見事にデザインされた小さな世界は、ホテルの旅を思い出してくれてとっても良い記念になるアイテムだと思います。

1970年代のほぼ10年間旅行屋の頃は年に平均すると7泊ぐらいの海外ツアーに年10回ぐらいは行っていたので持ち帰ってあれば随分と集まっているはずですが、あの頃はそんな余裕が全くなく今になってつくづく残念に思います。

2000年のことです。インドへ出張中の商社勤務の友人からメールが届きました。ムンバイに滞在しているということです。ひよっとしたらと思い「ホテルはどこ？」と聴くと「タジマハールホテル」という返事です。懐かしい！さすが一流総合商社。そのホテルは20年以上も前に泊まったマハラジャの宮殿のようなインドの超一流ホテルです。

私が泊まったのは、アフリカからの帰りの折、ケニアのナイロビからインド航空を利用した折にエンジントラブルでその日は飛ばず、当時ボンベイと呼ばれたムンバイで一泊することになり、全額インド航空持ちでこのタジマハールホテルという超高級ホテルに泊まることになったのです。友人へすぐに折り返しメールで、「ホテルの便箋と封筒を持って帰って！」とお願いしました。「お安い御用！」と言うことで、あのタジマハールホテルの素敵な便箋と封筒が手元にあります。

その後、出張や旅行で泊まるときは必ず持ち帰るようにしていますが、最近ではビジネスホテルには備えていないことがありとってもガッカリです。

たかが便箋と封筒ですが、新しいのは新しいなりに古いのは古いなりにその時代時代が反映されたデザインとホテルのセンスが現れていてとても楽しい。10年も経つとホテル側もデザインを変えるので懐かしく思い出される貴重な資料だと思います。

電子メールが主体になった昨今ですので、残念ながらだんだんと無くなっていくのでしょうか。完全になくなる前に、旅が旅だった時代のアイテム、資料としても残したいものです。

知人や友人が旅行や出張を聞くと、ホテルや旅館の便箋と封筒を、無かつたら口グ入りのメモでもいいのでもらってきてほしいとお願ひしています。

皆様！もしホテルなどの便箋封筒が眠っていたり、入手する機会がありましたら是非お譲りくださいませ。旅の資料館を作り永久保存したいです。乞うご協力！

想い出のホテルを旅する(六十八)

元 旅行屋のお勧め 京都・日本

俵屋

ホテル観光学を勉強していたころ、一度は泊まっていた憧れの宿が日本は、俵屋、海外ではバリのオテル・リッツでした。なので、俵屋はただただ憧れの宿でまさか自分が泊まれるとは思ひもありませんでした。

1975年、25歳のまだ若かりし頃、「野生のエルザ」を書いたジョイ・アダムソンさんを日本に迎え、東京、関西、北海道を案内したことがあります。この旅の北海道は、ムツゴロウさんこと畑正憲さんの動物王国に招待して頂きました。

ライオンと人間の愛を描いた「ボンフリー」という映画と主題歌がヒットし、作者のアダムソンさんを日本に呼び動物保護のエルザ基金への協力を呼び掛けるものでした。ケニヤから来られるアダムソンさんに日本を視てもらいたいということで私が案内する羽目になり、その準備の為に京都市の観光課に出向いて事情をお話しし協力をお願いしました。

突然訪れた若者に窓口の方は驚かれましたが、「少々お待ちください」と奥へ。しばらくして観光課の課長さんがニコニコと対応してくださいました。課長さんから、「ジョイ・アダムソンさんの野生のエルザが教科書に載っていて今娘が勉強しているんですよ」という思いもよらない縁でした。

せっかく京都に来て頂けるアダムソンさんを、京都市のお客様としてお迎えしようという思ってもみない返事で、京都市を巡るときに京都市の公用車を出して案内いただけることになりました。

そして宿泊先がまだ決まっていなかった旨を伝えると、旅館を勧めて頂きました。外国人だから何かとホテルのほう都合が良いかと思ひ込んでいたので意表を突かれた嬉しい提案です。旅館の紹介をお願いしたら、「俵屋さんはいかがでしょう」と、あの憧れの俵屋の名前が出てきたんです。

「俵屋は一見さんお断りでは」という私の質問に、私をご紹介しますからということ。こちらとしては願ってもない提案です。ちょっと待ってくださいねと奥に消えて数分度「お待ちしておられます」とのことです。

こんないきさつで、あの俵屋に泊まることになったんです。



舞妓さんのショーを見学するアダムソンさんをおくり出し、物音ひとつしない畳の間から深緑の苔とシダの清楚な内庭を一人で眺めている時間は夢心地の時でした。以来、もう一度泊まりたいと願っていますが、未だに実現できていません。